

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace八千代		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	保護者との共通理解・共感的支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談を受けた事は、直ぐに職員間で話し合い保護者様に伝えている。 不安に感じている事共感し、職員間で共有している 	<ul style="list-style-type: none"> 面談の機会を多く取り入れ、保護者様の不安感など共感しつつ少しでも解決する事が出来る様に相談できる機会を設けていく。
3	宿題支援	<ul style="list-style-type: none"> 宿題のない子には教室で用意したプリントを提供したり、宿題のある子に対してわからない所など寄り添いながら一緒に考えている。 机に向かって取り組む姿勢を習慣づけられる様にしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き無理のない世に行い職員と一緒に考える事で、学習意欲を引きだし楽しく取り組む事が出来る様にしていく。 空間を上手く使い、入り一人が取り組みやすい環境を整えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 冊子の中でも有用な記事があった際に、おすすめする等の声掛けが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教室合同で講師を招いての研修会が可能か事務局と検討していく。 記事の内容を見てお勧めするようにしていく。
2	地域の子どもたちとの交流	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時にその日の様子を話すのみで、関係性を深める努力をしていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係を深めていく事で、一緒に活動出来る機会があるか検討していく。 地域で開催しているイベントに参加していく。
3			